

創刊号

1999. 12. 6

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行/地球の木理事会

■発行責任/横川芳江

■編集/広報部

■事務局/〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-8-4

TEL 045-471-5536

FAX 045-471-5543

E-Mail: CZR10753@nifty.ne.jp

CONTENTS

●NPO法人設立総会と記念シンポジウム

●北朝鮮農民訪問団報告会

●支援先ではいま（食をめぐる）＜ネパール・フィリピン・カンボジア・ラオス＞

●青少年のページWakaba

●スタディツアー案内

●本棚から



21世紀を市民主体の社会にするために

理事長 横川 芳江

NPO法人に向けて力強い第一歩

11月7日のNPO設立総会にて会員大多数の賛同により、グローバル市民基金「地球の木」は市民基金の冠を取り、特定非営利活動法人 地球の木に向けて出発しました。12月下旬神奈川県に申請し、縦覧、審査を経て来年4月に認証の予定です。大勢で準備を進めてきたこの総会を契機に地球の木は大きくエンパワーされました。

今回記念シンポジウムのために招聘したシニット・シティアラックさんと出会った北京女性会議でのキーワードは「エンパワメント（より良い社会を築くため、主権を持った変革の主体となる力をつけること）、コミットメント（主体的参加）、オルタナティブ（新しいあり方）」でした。環境を破壊し、資源を搾取するという、男性中心の社会構造を、女たちが力をつけて参画することで人間性を尊ぶ社会に変えていこうという宣言でもありました。

グローバル化のもたらしたもの

それから4年、世界は大きく動いています。さらに経済のグローバル化が進み、あらゆる分野で国境を越えた地域経済の統合、企業の統廃合が行なわれ、より巨大化する方向に進んでいます。グローバル化は勝者と弱者を生み、南北格差、貧富の差が拡大する結果を招いています。企業利益の前には人権、環境が破壊され、もはや修復不可能と言われるところまで来ています。

しかし、一方でグローバル化は人々の地球規模のつながりも作り出しています。エンパワーされた市民は新しい価値観によって変革の波を作り出しています。

地球の木も参加した「地雷廃絶国際キャンペーン」の活動は草の根から地球規模の連携を生み、地雷の全面禁止条約の批准を達成させました。また、「JUBILEE 2000（債務帳消しキャンペーン）」もNPO、市民、宗教者たちの世界的な連帯によって、最貧国を債務の重圧から解放する動きにつながりつつあります。

そして今、WTO（世界貿易機関）が進めている貿易・投資の自由化に対して、世界的な反対運動が巻き起こっています。ボーイング社、マイクロソフト社の本拠地であるシアトルで11月末に開催されるWTO閣僚会議には世界中のNGOや活動家が数万人以上集まると予測されています。世界経済を動かしている多国籍企業が財の力で貿易の自由化を推し進めるのに対して、NGOは途上国の人々も先進国の人々も共に生活者として連携をして、市民の力で生命や環境・人権を守るための対抗軸を作り出そうとしています。

世界の女性たちと手をむすび新しい社会の創造を

地球の木はこれまでも支援と国内活動を両輪の輪として行なってきました。地域での国際的な視野を広げると共に、他のNGOと共に国際的な活動にも参加してきました。ラオス、カンボジア、フィリピン、ネパールそしてタイの女性たちとの連携は私たちに人間を中心にした開発のあり方と私たち日本の自立についても考える機会を与えてくれました。「地球上のすべての人々が自然と共存し、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立したより新しい生き方を創造する社会の実現をめざして」（設立趣旨書より）、特定非営利活動法人 地球の木は発進します。

手をつなくアジアの女たち

設立総会の後、「母のキッチンガーデンから」の出版記念をかねた
基調講演と、パネリストを加えたパネルディスカッションが開かれました。

■ 基調講演 ■ 「変わりゆくタイの社会と女性」

シニット・シティラックさん

- タイWENIT「女性と環境」ネットワーク代表
- タマサート大学講師
- 「母のキッチンガーデンから」著者



シニット・シティラックさんの講演は、会場を埋めた170人の参加者の心に強く響きました。カナダでの経験談を交えた話とお母さんのエコロジカルな暮らし方のスライドに引き込まれ、改めて『開発』の持つ意味と日本人としての責任を深く胸に刻んだ人が多かったことと思います。

シニットさんの話の中には示唆に富むたくさんのメッセージが込められていました。その一部を紹介しましょう。

留学生としてカナダに暮らすうちに、第1世界の物にあふれた豊かさが南の貧しい国の犠牲の上に成り立っていることに気づきました。まるで機械のねじくぎのようになって働く第3世界の女性たち。クレジット・カードで簡単にアジアの女性が売買されています。インドネシアからカナダに輸入された紙は100枚でたったの99セント。インドネシアで買うよりも安く買えるってどういことでしょうか？木が切り倒された後の土地はどうなるのでしょうか？

私たちは自然と共に暮らしてきました。その中で培われた知恵は西欧化の波に流され、脇に追いやられてしまいました。西欧式の方法を取り入れるほかに手はないのでしょうか？カナダに暮らして初めて、古くさいと思っていた母の生き方が実は理想的な暮らし方で

あると気づきました。裏庭にあるバナナの葉は格好のラッピングに、ココナツは料理に使うだけでなく、ほうきや虫よけ、たわしまで作れます。

もちろん今ではもうこんな暮らしはできません。どうすれば押し寄せる『開発』の波に対抗できるのでしょうか？再植林でユーカリを植えることの追放運動に取り組んだ女性があります。東北タイに住むサ・インさんです。森を守る運動としてユニークなのは、木のまわりにお坊さんが着る黄色い法衣をつけて祈ります。こうすると木は聖なる木となり、その木を切る人に一生不幸がつきまとうこととなります。古くから伝わる方法で森林伐採を防いだのです。草の根の女性の視点を持った地域活動をネットワークしていくことこそが解決への道です。

インさんでも防ぎきれなかったものは宮沢構想の名のもとに進行している開発です。宮沢蔵相が昨年発表した、経済危機にある東南アジアの国々に対する円借款は、経済復興と雇用促進を目的に行なわれたのですが、

権力と結びついた無建設事業がタイのあちこちで進んでいます。利益を受けるのは誰でしょうか？労働者が受け取るのは日当30パーツ、100円にすぎません。タイの人々は何世代にも渡って借金と利息を払い続けなくてはなりません。みなさん、どうぞタイに来て現場を視察し、生の情報を持ち帰って日本社会

に変化をもたらしてください。

シニットさんのお母さんの暮らしは私たちの一昔前の暮らしです。それを失い、外国にも影響を及ぼしている今の私たちの暮らしを反省させられると共に大きな宿題をもらいました。



手をつなくアジアの女たち

■ パネルディスカッション ■



●パネリスト

松井やよりさん

(フリージャーナリスト、アジア女性資料センター代表)

タイでは、開発という暴力に対して草の根の女性たちが闘っています。

伝統織物を復興させることに成功した女性たちは、村における女性の地位向上も成し遂げました。一方、日本の社会では物が豊かになる反面、人間性が失われている危機的な状況にあります。私たちはタイから学び、価値観を変えて行くことが必要です。

●パネリスト

牧島佐代子さん

(生活クラブ生活協同組合 神奈川 理事長)

シニットさんとはエビが縁で北京女性会議で出会いました。そこでもらった元気が今の活動につながっています。生活クラブでは、生産者の顔が見えるエビやバナナの共同購入を通して、北と南の人間同士がどうい関係にあるかを学んできました。今直面している問題は、遺伝子組み替え食品や、多国籍企業の種子支配です。大きな力に対して、台所から立ちはだかつていなくてはならないと決意を強くしています。



女性の視点で、地域から、声をあげ、行動を

シニットさん 知識は大きな力となります。今や知識は私たちの手の中にあります。歴史に欠けているものは女性の視点です。私たちの運動を積み重ねて理論化し、変革を起こしていきましょう。

松井さん 日本は憲法9条によって戦争のできない国であったはずなのが、ガイドライン関連法をはじめとする各法案の通過により、戦争のできる国に変わるという、戦後最大の危機的状況にきています。もっと女性が声をあげ、行動を起こして行かないと、本当の意味でアジアの女性たちと手をつないで行くことはできないし、信頼も得られないだろうと感じています。

牧島さん グローバリゼーションに対抗していくのは、地域であり、個人です。地域の中で活動していくことはとても大切です。今、野菜もねらわれています。生産者と提携して、自分たちの農法と種子を守る農業を作っていきたいと思います。

(丸谷士都子)

●コーディネーター 谷山博史さん

(日本国際ボランティアセンター事務局長)



行政、企業から重要視されなかったNGO活動が今注目されるようになりました。その中で女性がとても活発になりました。まずは知ることから行動につなげ、行動からますます知る必要を感じるでしょう。シニットさんから学ぶことは多く、私たちこそが助けてもらう側ではないでしょうか。

たくさんのボランティアが今回のシンポジウムを支えてくれました。地球の木に集う人達のものすごいパワーを改めて実感しました。これからこの力が広く、大きく波及していくことを予感しています。

(タイチーム 筒井由紀子)



手作りケーキでティータイム

自然破壊が招いた食糧危機

地球の木も参加している「北朝鮮子ども救援キャンペーン」では1997年からカンパ活動を行い、今年は交流活動として子どもの絵画展を行なった。そして、9月には日本の農業関係者ら5人からなる訪問団が北朝鮮を訪れ、その報告会が10月2日にフォーラムよこはまで同時開催の「北朝鮮の子どもたちの絵画・写真展」の会場で行われた。北朝鮮の食糧生産は人口2,200万人の8カ月分に相当すると推定され、中国国境周辺から伝えられる話では、この3年間に食糧不足のために350万人が死亡したという。また国連の調査では7歳以下の子どもの62%は栄養不良であるという。



銀波（ウンバ）共同農場で農民と一緒に稲刈り（JVC提供）

途上国のモデルだったことも

訪問団のメンバーの一人、農業ジャーナリストの大野和興さんによると、現在の北朝鮮の食糧生産はWFP（国連世界食糧計画）などの推定で350万トン程だが、10年前には800万トン以上であって、アジア・アフリカ諸国のモデルとさえ言われたことがあった。それが今日のようになったのは、政策上の問題があったと見られるという。北朝鮮が社会主義のもとに行ってきた近代農業は、機械化、化学肥料投入など、原材料、石油、工業生産力に頼って支えられてきた。農産物は生産を米とトウモロコシに特定化した単純な連作をしてきた。化学肥料を大量に投入することで増産をはかってきていた。聞いたところでは、日本で多く入れているところの倍以上の化学肥料を入れていたようだ。しかしソビエトの崩壊後、ソビエトからの支援がなくなってからは、原材料を買う資金がなくなり、工業が弱って、化学肥料が入手できなくなった。また耕

作地の拡大のため森林を伐採して開墾を進めてきたことが自然災害を起こしやすくしたと考えられる。北朝鮮の土壌は花崗岩質でサラサラなので流失しやすい。それが用水路や川を埋め、川底が上がって洪水が起きやすい状態を作り、灌漑が機能しなくなったのだ。

大野さんは昨年12月と今年4月、9月に北朝鮮を訪れ、農作物の成長を見てこられた。今年の稲の実はよくついでいて、ナシ、リンゴ、トウモロコシを出されたが、どれもよくできていたとビデオで訪問時の様子を紹介された。

輝いている子どもの目

農業問題研究家の西沢江美子さんは、北朝鮮の人々の暮らしを見たかったが台所などは見せてもらえず残念だったと、農村の印象を話された。北朝鮮は共同農場なので日本の農地とは違った光景だが、台所は共同ではなく、ご飯は家族で食べているということだ。社

会主義は何でも共同化されていると思っていたが、家庭は別で、その中で個が大事に守られているという印象を持ったという。農村の子どもたちの目は輝いていた。子どもたちには絵、音楽の基礎をしつかり教えているということで、農業生産者の吉岡照充さんは子どもたちが踊り、歌を披露してくれたがとてもよくできていたという話をされた。日本国際ボランティアセンター（JVC）の荻野洋子さんからも「子どもの絵展」の報告のためピョンヤンに行ったが、子どもたちは日本の子どもに見てほしいと言ってまた新しく絵を描い「くれ、あまりにがんばっているのどうしてなのか」と思ってしまうほどだったと言われた。

認められつつある多様性

大野さんのお話では、食糧支援のため外国人が入ってきたり、人々が買い出しのために移動するようになったことがきっかけで、画一的な農業生産方法が改められ、多様化が認められつつあるということだ。作物は米、麦の二毛作が取り入れられ、ジャガイモが世界各国から援助されて、200種類以上の種イモが試されている。稲の栽培方法もこれまでの密植する方法に代わって日本並の粗植が実験されている。訪問団が立ち回った農場の一部で大根の畑をソバの畑できっちり囲っているところがあったので、どうしてか尋ねてみると、こうやって害虫を防除するのだそうだ。昔の農民の知恵が見直されてきているのだ。

今年の配給は一人700gからだんだん減って、4～5月は200g、7月は採れたばかりのジャガイモが200g、7月には採れたばかりの麦が配給されたということだが、今年収穫のあった作物は11月に始まる次の農業年度のものなのでこの先どうなるのか心配だ。食糧を自給していくことは北朝鮮にとって大変であるが、日本の食糧自給率が28%であることにも注意してほしい。北朝鮮の農業の問題を他人事にするのではなく東アジアの問題として共に考えていくべきである。中国は現在自給しているが、WTOに加盟して農産物を輸入する国になると、世界の穀物はひっばくし、食糧を輸入に頼っている日本は危機に陥ると予想されている。

NGOは空白を埋める

北朝鮮には100人くらいの欧米のNGOの人が援助のモニターとして入っているが、日本人はいないので「北朝鮮子ども救援キャンペーン」としては、今後救援を再開してモニターとして現地に常駐できるよう可能性をさぐっていききたい。NGOは日本と国交のない国でも働くことで外交の空白と援助の空白を埋めていくことができる。このように、切れてしまっている関係を改善し、平和な社会を築くための発言をしていくことが市民の役目だと思う。それから、有機農業を広めていきたいと、活動の展望をJVCの熊岡路矢さんが話された。（後藤雅子）

ことば

WTO（世界貿易機関） [World Trade Organization]

戦後の疲弊した経済の立て直しを図るため1948年GATT（関税と貿易に関する一般協定）が発足し、関税引下げ、障壁の廃止など自由貿易を拡大させる国際ルールが協議された。86年に開始されたウルグアイ・ラウンドは94年で終結したが、そこでの合意を受け、95年自由貿易を支える国際機関として、IMF、世界銀行と並ぶWTOが設置された。GATTは商品貿易を対象としたが、新たに農業、投資、サービス、知的所有権なども組み込まれている。しかし先進国の保護主義が温存されていること、途上国にとって深刻な債務問題とかかわりのある一次産品（農産物や木材、鉱物などの天然資源）市場の管理を考慮しないなど大企業を持つ先進国にとって有利な構造であることが問題になっている。遺伝子組み替え農産物や農業の自由化など私たちの生活に深く関わる問題が多い。

カンボジアから

“るしな”のおすすめメニュー

「ほくぶ」の直接支援先、「るしな・こみゆにけーしょん・やぼねしあ」の孤児受入れ施設の名前が決まりました。「チャーロップルダイ」（木はよく育つ大地の恵みで）と「地球の木」にちなんでつけられました。ここに来た子供たちが、若木としてすくすく育ってほしいと思います。以下、最近の電子メールの便りから今回は“食”に関する事を抜粋してお知らせしたいと思います。

ー10月10日、お盆が終わり落ち着いたところです。年に1度ご先祖様を供養するこのお盆など日本と共通する文化や、習慣が多々あります。日本と共通している食材もかなりありますので紹介しましょう。ぬか漬、豆腐、お米、もち米、乾麺、フランスパン、さつまいも、サヤインゲン、ドクダミ（なまで食べます）、唐辛子、にんにく、ニラ、もやし、トマト、レタス等々です。

乾麺を使ったおすすめ料理「トゥック・トレイ・パアエム」を紹介します。

つけ汁・・・にんにく（つぶす）、ピーナッツ（いくつかに割る）、唐辛子、砂糖、塩をそれぞれ適量でまぜ、湯冷ましを加え味を整える。

材料・・・自身魚（焼いておく）、豚肉（ゆでておく）、もやし（ゆでる）、きゅうり（スライス）、そうめん（ゆでて1口大に丸めておく）、レタス、キャベツ

食べ方・・・レタス（キャベツ）にそうめん、肉、魚、野菜を適当に包み、つけ汁にひたして食べる。以上です。ぜひお試しください。（ほくぶ 小泉恵子）

ラオスから

森はスーパーマーケット

ラオスでは、機械や肥料を使わず自然にまかせた農業が広く行なわれています。主食はもち米ですが、十分にはとれません。村人たちは、森に食べ物を採りに行きます。森には、筍、きのこ、山菜、木の芽、いろいろな野草の他、うずらやハト、小さな鹿や野ねずみといった小動物、小川の魚など、またアリやイナゴもおり、すべてが食料となります。のどが乾いたらつるの木を切って水を飲みます。お腹がへったら、木の実を食べます。他に薬草もあります。草や木の実、つる、木の皮、根などが薬になります。竹も生えています。籠、魚捕りの道具、テーブル、ご飯を入れるティプカオ、楽器など多くのものが竹製です。森にあるのは木だけではありません。野菜があり、肉もあり、日用品も作れるし、薬局でもあります。森は日本のスーパーマーケットの役割をしているのです。

ラオスの村の暮らしは森抜きには考えられません。森や川など豊かな自然からの恵み、自然とともに生きる知恵、伝統文化を守ってきた農村の暮らしがある反面、都市では、市場経済化の波が押し寄せてきています。先進国が通ってきたあやまちをくり返したくないものです。（三浦 松本陽子）



タルー族の村の風景

フィリピンから

忘れられないあの味

フィリピン・ネグロス島は、1992年以来、日本ネグロスキャンペーン委員会を通じて援助、交流を続けてきたところです。ここはずっと貧富の差が激しく、人々は1日3度食事をする事、また地主に雇われる事なく自活していけることを目標に頑張ってきました。前よりは少し生活が楽になりましたが、それでも食事は魚の入ったスープとごはんというのが主です。お米が食べられない時は、芋、とうもろこし、キャッサバ（タピオカの原料となる芋の一種）などを食べます。

私はスタディーツアーのメンバーとしてネグロスへ行きましたが、その時はお客さんが来るというので、常にご馳走でした。その中で、私が特に気に入ったものを紹介したいと思います。まず、ココ椰子のデザート。仲間が木に登り実を落としてくれます。これを上手にナタで切って、中の水を取り出します。その水と、中の胚をスプーンでくりぬいたものを一緒にして、コンデンスミルクと水を加えると何ともいえない最高のデザートが出来上がります。暑い日差しの中で食べたこのデザートの味は忘れられません。

次は、シニガンという酸味のあるスープ。バトワン、またはシニガンという実で酸味をつけます。具は主に魚、ジャックフルーツ、パパイヤの葉などです。ごはんによく合います。日本で言うごはんと味噌汁のようなものでしょうか？

フィリピンはスペインの植民地だった歴史があり、料理にもその影響を見ることが出来ます。もともとスペイン料理は、日本人の口に合うことで知られているので、皆様も是非一度フィリピンを知る機会としてどこかで召し上がってみてください。（とうぶ 大貫 駒）



ネパールから

タルー族の村に食の循環を見た

朝、井戸端に集まる人々の声で目を覚まし、庭に出ると草むらに白い羽が散らばっています。「あっ、きのうの夕食のとりだ！」私たちスタディー・ツアー一行をもてなすために犠牲になったのは、雞を連れて忙しそうに歩き回っていたあの白い雞だったのです。庭では牛や水牛がわらを食み、雞の親子がおこぼれをついばんでいます。タルー族の主食は米。

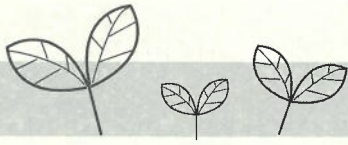
脱穀したわらを動物たちが仲良く分けあい、その動物を人間が食べる。一軒の家の中で「食」の循環がみごとに行われています。

但し、ヒンドゥー教を信じるタルーの人々が牛肉を食べることは決してありません。牛は神様のお使いだからです。雞はごちそうです。山羊はお祭りや男の子が産まれたときに食べます。女の子が産まれたときはそこいら辺に転がっているカボチャを切るそうです。それくらい女性の地位は低いのです。

私たちが訪問した時はちょうどお正月で、豚を庭先で解体して近所の人々が家に持ち帰っていました。女性リーダー、クリシュナ・デビの家に招待された時ごちそうになった焼きたてのロツティ（ナンに似たパン）と山羊も格別でした。私たちはよくククラ・コ・マスという鶏のカレー、ダル（豆のスープ）、パート（ご飯）、タルカリ（野菜のカレー）、アツァール（大根などの漬物）等でもてなされましたが、村の人々の食卓はずっと質素なようです。カマイヤ（農奴のように地主に隷属して働く農民）などは1年働いても4ヶ月分の米しかもらえないそうです。

ホームメイド焼酎（ロクシー）の味も忘れられません。リーダー達もつい口がゆるんで家庭内の問題をうちあけたり、心の通い合うひとときを持つことができました。ああ、早くネパールに行きたーい！

（ネパール・チーム 乳井京子）



J CNC全国ネットワーク交流会 ('99.10.16-17)



JCNC(日本ネグロスキャンペーン委員会)は地球の木のネグロス支援の窓口だ。JCNCは各地にネットワークがあって、今回地球の木も、神奈川のネットワークとなったので交流会に参加することになった。

テラニシミコ さく

山梨の白州郷(はくしゅうごう)牧場に北は札幌から南は福岡まで、各ネットワークの人々が集まった



200年前の民家を移築したというカッコイ建物の1階に、長い机を並べて座った



ゲスト1) FROM ネグロス



おなじみBGA(バランゴンバナナ生産者協会)から、委員長のピボットさんと事務局のチータさん

ツبران研修農場からは農場長になった、エドガーさん

バナナ村からは、バナナだけに頼らない農場自立の推進とあわせ健康問題や奨学金制度への取り組みについて紹介。ツبرانからは研修制度の改善とPAP21の活動報告があった

ゲスト2) FROM 韓国

한살림 (ハンサリム) という消費者・生産者生協から

ソヒョンスク 徐亨淑さん(副代表)

チョンナムスク 鄭男淑さん

私は消費者ソウルに住んでいます。ハンサリムは農村訪問で生産者の顔を直接知っているのが強みね

私は生産者4家族の集う共同体でタマゴをつくってます。夫の勧めで来ました

生産者・消費者・職員それぞれが主人公で、交流会や勉強会を通じて、お互い尊敬あっているという。消費者だけ肥大化している日本の生協と比べると、ちょっと羨ましい

ところで、なぜ「ネグロス」キャンペーンが韓国なのか？



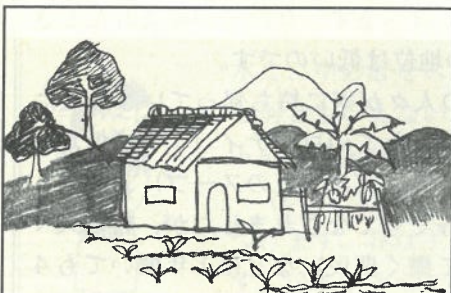
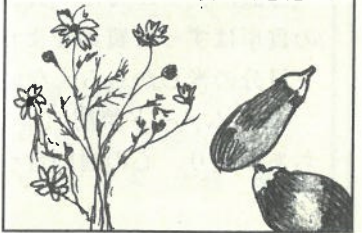
それは新しい取り組み「ARA」のため！
アジア農村オルタナティブス



アジアの農村が、お互いに結びついていこうという、新しい取り組みなのである

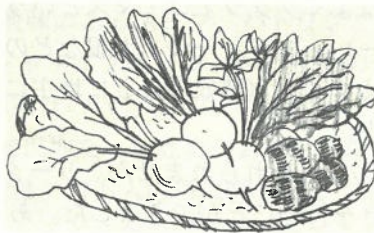
地球の木は、JCNCのネットワークとしてはまだ初心者でARAどころか、PAP21もBGAも、何だかよくわかんないというのが正直なところでも、そこで首をかしげた方ぜひネグロスチームに、声をかけて下さい。興味を持って下さることがスタートです

今を盛りと咲きほころぶコスモスと巨大な米ナスをおみやげに持って戻ってきた...



地球の木は「ネグロスのため」バナナ村が自立できるように、さとう労働者が土地を持って耕せるように、支援していたのに、何でネグロスと関係ないことを始めたの？と、疑問を持つ方もいらっしゃるでしょう

でも、農と食というのは、ネグロスだけでなくわたしたち日本人にとって大切なこと。いま、食物消費の70%を外国に頼っているが自分の食卓は自分で守るのだということを忘れてはならない



青少年フィリピン・スタディー・ツアー

フィリピン、ネグロス島のバナナ村を訪ね、民家にホームステイして、現地の自立をめざす青少年たちと交流します。一緒に劇を作ったり、歌を歌ったり、海で遊んだり・・・普通の観光旅行では決して味わうことのない触れあいや感動が若いあなたを待っています。説明会では、ネグロスに魅せられた青年たちが忘れ得ぬ思い出や島の魅力を語ります。

日 程	2000年3月25日(土)から3月31日(金)までの6日間
訪 問 先	フィリピン、ネグロス島
参 加 費	約18万円
募 集 人 員	8名 (16歳～20歳位の方)
説 明 会	2000年1月16日 (日) 午後2時～4時 県民活動サポート・センター7階702号室 (横浜駅西口徒歩5分)
締 切	2000年2月5日(金)



ネパール・スタディー・ツアー

教育の原点を探しに行こう！

「地球の木」が3年間にわたって教育支援を行ってきた先住民タルー族の村々を訪ねます。教育がこれまでのあきらめの人生に希望を与え、村に変革の嵐を巻き起こしています。もの言わぬ女性たちが声高に主張し始めました。学んだことを次々に実践し始めたのです。

教育って一体なんでしょう？知識を積むだけでよいのでしょうか？「少し分かってきた。もっと知りたい！」と学習意欲に燃える女性たちとの触れあいは感動が一杯です。

訪れる場所は、インド国境に近い極西部のタライ平野。ネパールの穀倉地帯です。一昔前の日本を思わせるような田園風景が広がります。心のふるさとタライにご一緒しましょう！

日 程	2000年3月26日(日)から4月3日(月)まで9日間 (成田着：午前7時)
訪 問 先	カトマンドゥ、極西部カイラリ郡の村々
参 加 費	約22万円
募 集 人 員	10名 (健康な男女) 定員になり次第締め切ります
説 明 会	2000年1月22日(土) 午後2時から4時 県民活動サポート・センター6階601号室 (横浜駅西口徒歩5分)
学 習 会	2月26日、3月11日にはご参加ください
締 切	2000年2月10日

お申し込み、お問い合わせ：地球の木事務局 045-471-5536

事務局スタッフ紹介

飯田 信子さん

横浜市緑区在住。事務局長になって緊張しています。今のところ趣味が地球の木です。

2人しか座れないような狭い事務局に毎日電話の音が頻繁に鳴ります。他の団体との調整、理事への連絡、「マジカルバナナ」や「母のキッチンガーデン」からの申し込み、地球の木の活動やスタディツアーへの問い合わせなどです。スタッフ4人でテキパキ(!)対応しています。特に若い世代からの問い合わせも多く、NGOや国際協力についての関心の高さが伺えます。

会員の皆様からのお問い合わせやご意見もお待ちしています。情報発信基地として事務局をおおいに利用してください。



高村 洋子さん

横浜市港北区在住。魚座。O型。趣味：ハムスターと遊ぶこと。不思議体験を聞くこと、読むこと。最近嬉しかったこと：事務局スタッフになれたこと。最近悲しかったこと：緊張と仕事熱心(?)のあまり、首が動かなくなること。グッズ販売の管理等を担当しています。地球の木に関わる人たちの多種多様多彩多才に驚いています。地球の木のさらなるパワーアップに貢献したいと思っています。



戸代澤 直子さん



湘南 brunch の会員です。小学生の頃インドに住んでいました。だからカレー大好き。事務局に入って2年目です。会計とマジカルバナナの販売を担当しています。

対馬 芳子さん



横浜西部 brunch の会員です。会員の入会、退会、会費の管理を担当しています。

事務局に入って2年目ですが、最近は生け花や史跡めぐりを兼ねてウォーキングを楽しんでいます。

役員一覧

特定非営利活動法人設立総会で承認された役員は以下の通りです

理事長	横川 芳江	副理事長	後藤 雅子	副理事長	丸谷士都子	理事	後藤 知加子
理事	澤野 伸子	理事	乳井 京子	理事	澤 節子	理事	中野 真理子
理事	嶋 一枝	理事	坂下まさみ	理事	若林 英子	理事	石川 美恵子
理事	稲葉 博子	理事	米林 大作	理事	筒井由紀子	理事	田中 真樹子
監事	上林 得郎	監事	山西 優二	監事	岸田 仁		

地球の木の 本棚

から

地球の木事務局には狭いながらも小さな本棚があります。これまでの活動の流れと共に集まってきた本やビデオたち… 報告書、貴重なデータ集、現地の映像etc。これらを会員のみならずにもっと活用していただきたく、順次紹介していきます。



貸し出し中

ビデオ『種子を守れ!』 30分

アグリビジネスとたたかうインド農民

「ガット・ウルグアイラウンドで、米国を中心とした「自由貿易」推進の圧力は、農業やサービスの分野にまで広がりました。商品としての作物や種を作る工場のようにされていく大地。インド・カルナーダ州の農民は自分たちの種で自分たちの食べ物を作る農の営みを守るために立ち上がりました。未来をあずかる命の

守り手は儲けのために世界を渡り歩くアグリビジネスではなく、大地を尊ぶ人々と農民の女性たちです。」

ビデオをじっくり見るのが得意でない私には短いのがまずよかったですネ。予備知識がなくても大変分かり易い。サリーを着て種を播くインドの女たちの姿はノンキそうですが、静かに語るその内容の力強く意味深いこと。
(斉藤 和子)

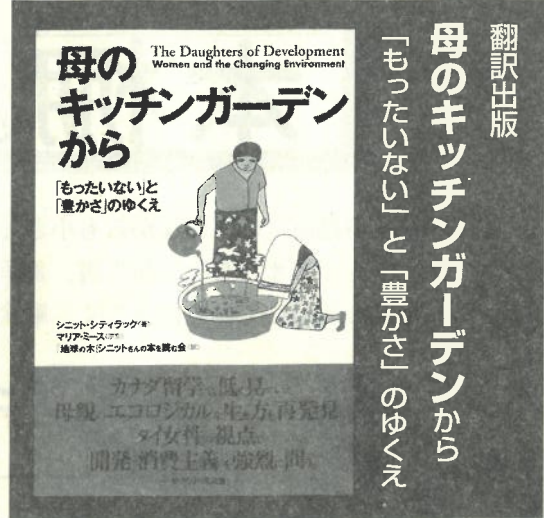
●地球の木はこんな活動をしました (8月～10月)

- 8月 6日 開発教育協議会全国研修会でマジカルバナナのワークショップ
- 8月 7日 開発教育協議会全国研修会で事例発表 (鴨居東中学校での出前講座)
- 8月22日 つるみ西口アジア・マーケット「見近な所からの国際協力」で販売
- 8月24日 まあじょらむ夏休み子どもイベント「ネパールの子どもの暮らし」
エスニック料理会
- 9月 8日 横浜市港北区生涯学級「バナナを通して考える私たちの暮らし」で講師
- 9月17日 生活クラブ生協東部ブロック地区会でマジカルバナナのワークショップ
- 9月20日 けんぼく生協ビジョンでマジカルバナナのワークショップ
- 9月25日 世田谷キリスト教会でマジカルバナナのワークショップ
- 10月1～4日 北朝鮮のこどもたち写真・絵画展 (フォーラムよこはま)
- 10月 2日 農民交流団が語る北朝鮮訪問報告会 (フォーラムよこはま)
- 10月17日 デポーまつり参加 東寺尾デポー、東戸塚デポーほか
- 10月24日 女性フォーラムまつりで ネパール識字教室支援のスライド映写、
タイの薬草と自然農業についての活動紹介スライド映写
- 10月30～31日 よこはま国際協力まつり参加 物品販売とカレー販売、展示
マジカルバナナのワークショップ



ただいま販売中!

内容 1. クイズ 2. カードゲーム
3. ロールプレイ台本 4. ランキング
輸入食品を通して消費生活を考える。小学生から大人まで、10~20人程度のグループで、参加型学習に。 ¥1,500 (送料別)



シニット・シティラック著 マリア・ミース序文
タイ女性の視点で「開発」と「消費主義」を批判。著者の母親のライフスタイルを通して 近代的生活の「豊かさ」の矛盾を描く。

¥1,500+消費税 ¥75

出前講座いたします

- 講師・ファシリテーター派遣
 - マジカルバナナのワークショップ
 - ネパール識字教室のスライドとお話
 - サリーの着付け教室
- 講師料相談に応じます。事務局までお申込みください。

会員の皆様の意見を募集しています

今回のテーマ「北朝鮮への人道支援」について200字程度。氏名明記の上、事務局まで郵送またはFAXしてください。

地球の木とは

地球上のすべての人々が自然と共存し、人が人らしくあたりまえに生きていくことが出来るように、地域と地域を結ぶ国際協力活動を行い、相互理解を深める社会教育活動を通して、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立した生き方を創造することを目的としています。

お問い合わせは、地球の木事務局 045-471-5536まで

アジアを学び、アジアに学ぶ

<料理を通してアジアを学ぶ>

連続講座
第一回

日時 2000年2月5日(土) 午後1:30~4:30

定員 8~15人

受講料 3,000円(単発参加)

場所 オルタ館4階料理教室

申し込み VISION 事務局まで TEL/FAX 045-472-7093

ネパール料理(ククラコマス、トマトアツァール、野菜のカレー風炒め)

2月以降フィリピン、タイ、カンボジア、台湾、朝鮮料理の実習と会食をおこないます

7月まで毎月1回、第1土曜に開催いたします。

会員募集中!

地球の木は市民が作る
国際協力 あなたも力
になってください



おねがい

ギターを寄付してください
青少年フィリピンスタディ
ツアーでネグロスの青少年に
プレゼントします。